

## 今週（10月7日から10月11日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、目立った資金需給要因は無く、日銀当座預金残高は400兆円程度での推移となった。無担保コールO/Nは、先週からの流れを引き継ぎ、調達ニーズが非常に強い状態が継続していた。ビッドは概ね▲0.02～0.00%となり、無担保コールO/N加重平均レートは、週を通して▲0.01%前後で推移するなど、調達ニーズの強さが反映されていた。ターム物は、オファーが少なく目立った出合いは見られなかった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、13日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額2,168億円（期落ち額2,238億円）の札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のGC T/Nは、概ね▲0.080～▲0.040%程度のレンジで推移した。積み期間が終盤に向かうにつれ、レートが低下していく展開となったものの、積み最終日にあたる11日の取引では、最終調整から上昇する場面も見られた。週初7日のGC T/Nは▲0.050～▲0.040%程度、8日は▲0.060～▲0.050%程度、9日は▲0.060～▲0.045%程度、10日は▲0.070～▲0.060%程度、11日は▲0.080～▲0.040%程度で推移した。

SCは個別銘柄では5y138～140、10y338～356、20y167～169、30y59～63、40y11～12等、カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散な中、オペの軟調な結果を受けて小甘く推移する展開となった。出合いは、3M物で▲0.360%程度、6M物・1Y物で▲0.290%近辺が見られた。

8日に実施された短国買入オペは1,000億円でオファーされた。オペ通告後に1Y物が▲0.296～▲0.293%で出合う展開となる中、平均落札利回較差+0.016%、全取落札利回較差+0.016%と在庫調整の売りから弱めの結果となった。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.310～▲0.295%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.2967%、按分落札利回▲0.2708%とWI取引ほどの強さは見られず、テールが流れる結果となった。短国買入オペが減額されており、当面それが継続しそうなことが弱い結果に繋がったと考えられる。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.290～▲0.286%出合いと底堅く推移した。

11日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.320%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.3049%、按分落札利回▲0.2801%と前回債からレートが上昇する結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.290%出合いと按分レート近辺で推移している。

### ●CP市場

今週のCP市場は、10日、15日発行にあたり、商社、建設、ゴム等の業態で大型発行が見られた。期明けの発行再開があった先週の勢いには及ばず、やや落ち着いたマーケットであった。週間の金額ベースで見ると、最上格の商社が3日連続で大型発行を行ったことで、5,800億円程度の償還に対して、8,000億円程度の発行と、発行超の市場となった。また、市場残高については、先週に18兆円台を回復して以来、徐々に残高を積み増しており、週を通じて19兆円台前半での推移となった。発行レートは、投資家のキャッシュ潰しニーズがそれほど強くなく、発行頻度の少ない希少銘柄を含め、全体的にややレートが上昇した。概ね浅いマイナスから0%近辺であった。

11日にはCP等買入オペが、2,500億円でオファーされた。今月のオペは2回で計5,000億円程度と少ないことや、発行量の膨らみから在庫の入替ニーズもあり、平均落札レート0.004%、按分レート▲0.001%と、前回比（平均▲0.001%、按分▲0.005%）で共に上昇した。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/7 (月)	21,375.25	△ 0.230	106.80	△ 0.012	△ 0.046	4,005,200
10/8 (火)	21,587.78	△ 0.205	107.39	△ 0.012	△ 0.057	4,010,900
10/9 (水)	21,456.38	△ 0.210	107.09	△ 0.012	△ 0.063	4,009,000
10/10 (木)	21,551.98	△ 0.215	107.33	△ 0.011	△ 0.063	4,001,300
10/11 (金)	21,798.87	△ 0.185	108.00	△ 0.010	△ 0.076	3,992,600

## 来週（10月15日から10月18日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/14 (月)	体育の日				米国祝日(Columbus Day)
10/15 (火)	8月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 8月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)				
10/16 (水)		交付税借入 10,500億円 10/25借入			米ベージュブック 9月の米小売売上高 8月の米企業在庫 9月のユーロ圏消費者物価指数改定値 9月の英消費者物価指数
10/17 (木)		TB1Y 19,000億円 10/21発行	5Y 19,000億円 10/18発行		9月の米住宅着工件数 9月の米鉱工業生産・設備稼働率
10/18 (金)	月例経済報告(内閣府) 9月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 42,700億円 10/21発行			

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/14 (月)	体育の日								
10/15 (火)	500	81,400	81,900	全店共通 CP買入	▲ 2,200 ▲ 500	2,200	▲ 500	81,400	年金定時払い 源泉税揚げ 社会保障 TB3M発行△43300償還42900 2Y償還6200 個人向け3Y・5Y・10Y発行△4500 個人向け償還800
10/16 (水)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	
10/17 (木)	0	1,000	1,000	CP買入		2,500	2,500	3,500	
10/18 (金)	▲ 1,000	▲ 11,000	▲ 12,000				0	▲ 12,000	5Y発行△20000 交付税借入△10500期日10500
週間合計	500	73,400	73,900	—	▲ 2,700	4,700	2,000	75,900	

10/15は日銀予想、10/16以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終日となる15日は年金定時払いがあるものの、引き続き調達ニーズの強い展開が見込まれる。新しい積み期間に入る16日以降は、一旦レートが低下して始まると考えられるが、一定のビッド数が見込まれることから、底固い展開を予想する。レポ市場は、新しい積み期間に入り、若干のレート低下が予想される。GC O/N物は、▲0.110～▲0.070%程度での推移を予想する。短国市場は、17日に1Y物、18日に3M物の入札が実施予定となっている。入札の水準も含めて、市場動向が注目される。短国買入オペは16日に1,000億円でのオファーが予想される。CP市場は、月の中旬に入り、引き続き落ち着いたマーケットになると予想される。良好な発行環境が続いていることから、発行銘柄の拡大にも注目が集まる。

主要なイベントとしては、国内では18日に9月の全国CPI、海外では16日にベージュブック、9月の英国CPIが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。